

5-2 世界の諸宗教 <基礎編>

宗教とは何だろうか？

宗教とは何 だろうか

宗教とは何だろうか。多くの日本人（特に最近の若い世代）にとって、宗教はよくわからないもののひとつではないだろうか。特に日本では年末になると、多くの人々が本来キリスト教の行事であるクリスマスを祝い、大晦日には仏教寺院から聞こえてくる除夜の鐘に耳をすませ、正月になれば神社に初詣に行く。日本人の多くは必ずしも特定の宗教を信仰せず、さまざまな宗教的行事を意味もよくわからないまま楽しんでいるだけで、むしろ真面目に宗教を信仰する人を「心の弱い人間だ」などと誤解している面がある。

その背景には、日本では宗教を装って詐欺まがいの行為をおこなう悪徳集団が目立つことや、世界中で宗教がからんだ紛争が頻発していることが影響しているのかもしれない。中には「宗教とは多数の厳格な戒律で人々を束縛するものだ」と思っている人もいる。

確かに古代においては、理解不可能な自然現象を説明するために「神」が用いられたが、現代では発達した科学で説明できるようになった。しかし現代においても、宗教は人間に希望と生きる力を与えるものとして世界の大多数の人々に信仰されている。なぜだろうか？ それは例えば、私たちがさまざまな人間関係の中で傷ついたり、希望を失うほどの悲しみや貧しさに直面したとき、誰ひとり自分を理解してくれる人がいなくても「神だけは理解してくださる」と信じることによって、悲しみの淵から救われ元気になれることが現実にあるからである。たとえ「神」が仮想であっても、「神」を信じることによって苦難から救われ、希望をもって再び社会に立ち向かっていくエネルギーが湧き出してくることがあるのだ。

世界の主な 宗教

古来から多くの人々を導いてきた伝統的な宗教として、**キリスト教・イスラム教・仏教・儒教**などを挙げることができる。キリスト教は、主に**隣人愛**で人々が結びつくことによって平和な社会が可能になることを教えてきた。いっぽうイスラム教は神の前での人間の徹底的な**平等**を実現しようとする姿勢に貫かれている。また仏教は、物事の因果関係（**縁起の理法**）を知ることによって心の平安（**涅槃**）を求めようとする。このように、ほんらい宗教は人々が心を鎮め、あるいは社会を正しい方向に導くために、人間が学ぶべき「**生き方**」について教えてきたものなのである。